

本当に役に立つ、使えるクラウドへ

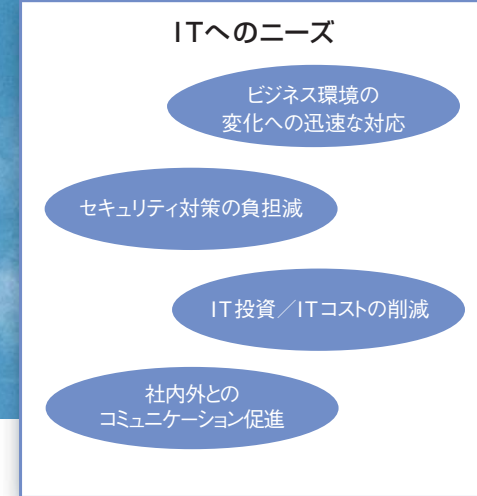
2011年は クラウド活用元年

コンピュータ利用環境に大きな変化が訪れようとしています。「クラウド」が注目を集め始めて約3年。その導入の目的は「コスト削減」だけではなく、「設備投資や運用コストの最適化、各種リードタイムの短縮」へと広がってきました。今年には本格的な活用がさらに進むと予想されています。

2011年はクラウド活用元年

クラウドサービスとは

クラウドコンピューティングによって提供されるサービスの総称。クラウドコンピューティングは、インターネット経由で提供されるコンピュータの利用形態で、利用者はサーバやデータなどのリソースの場所を意識せずに利用できる。ネットワークを図で示す際に使われていた雲の絵から、クラウド(雲)と称される。代表的なクラウドサービスの分類として、アプリケーションサービスの SaaS、プラットフォームサービスの PaaS、インフラサービスの IaaSがある。



インフラサービス	<ul style="list-style-type: none"> ●TCOの削減 ●資産の圧縮による財務体質の改善 ●需要に応じたコスト構造
プラットフォームサービス	<ul style="list-style-type: none"> ●環境変化に即応できるアプリケーション ●アプリケーション開発のコスト削減
アプリケーションサービス	<ul style="list-style-type: none"> ●標準的なビジネス機能の運用負担減 ●組織や企業を超えたコミュニケーションの実現 ●ウイルスや災害などのリスク対策の委任
デスクトップサービス	<ul style="list-style-type: none"> ●クライアントPCの管理からの解放 ●OSのサポート切れへの対応の一元化
デバイスサービス	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい価値の創造・提供 ●ワークスタイルの変革

サービスを選ぶ観点

複数企業で利用形態を共通化する、また、独自の業務プロセスに依存しない機能をクラウドサービスの利用に移すなどのニーズも増えています。具体例としてはメールやポータルなどのコミュニケーション機能やトレーサビリティなどの複数企業間での情報共有が挙げられます。

また、システムの特長やITリソースの消費状況などに応じた柔軟なシステム構成を実現するには、クラウドサービスと自社専用のアプリケーションの実行環境をシームレスに接続したハイブリッ

変化への対応力を高めるクラウド

クラウドコンピューティングによって提供されるサービスをクラウドサービスと総称しますが、日本でも2009年後半から各ベンダーが様々なクラウドサービスを発表し、昨年は多くのサービスが開始されました。低コストで短期間に大規模システムを実現する手段として、「エコポイント」のシステムにクラウドサービスが使われたことは有名な話です。ネットワークを通じてアプリケーションを利用する

SaaS、サーバやストレージなどインフラやプラットフォームを利用する PaaS や IaaS も普及段階に入ってきました。

- これらのサービスを利用することによって、
- システム稼働までの期間短縮、システムの柔軟性を高めることによる変化への対応力強化
- 運用コストなどTCO(情報システムの導入、維持・管理などにかかる費用総額)の最適化
- ROA(総資産利益率)の改善など財務的效果などの効果が期待できます。

様々な企業で導入が検討されるようになってきたクラウドサービスですが、単にコスト削減だけに注目して現行システムをクラウドに移し替えるだけではなかなかうまくいかないことがわかってきました。

現行のシステムをクラウド上に移したとしても、償却資産やリースは残ったままであり、その転用も困難です。加えて、クラウド上に移す際のコストやリスクを勘案すると、現行システムのクラウド利用は限定的にならざるをえませんでした。

より現実的に「使えるサービス」へ

クラウドサービスは、短期的なコスト削減の目的

ド型のクラウドコンピューティングが考えられます。では、多くのクラウドサービスからどのような観点でサービスを選択したら良いのでしょうか。そのポイントはメニューの豊富さや見た目の安さだけでなく、自社の具体的なニーズに対する適合性に注目することです。

自社の具体的な課題やニーズを分析するとともに、業務プロセスの効率化・標準化さらには設備投資をはじめとした財務戦略なども考慮したうえで、まさしく企業戦略そのものと捉え適切な事業者をパートナーとして選択することが重要となります。

通信の進化が創る新たなビジネス

インターネットが創業以来目指してきた「コンピュータ・ユーティリティ」。いつでも、どこでも、誰もがコンピュータパワーを使える環境を実現するには、通信ネットワークも重要な役割を果たします。

コンピュータと通信ネットワークの進化は企業活動や日常生活を大きく変化させてきました。パソコンとインターネットの普及のみならず、無線通信の進化と端末の多様化によってコミュニケーション様式も様変わりしてきました。何よりもそれらが新たなビジネスを創出し、そのビジネスが経済活動の中で重要な位置づけになりつつある点にもあらためて注目したいところです。

今後、スマートフォンなどの携帯端末を利用した、場所を問わないクラウドサービスがビジネス面でも注目されることでしょう。

2011年はクラウド活用元年

コーポレート・ガバナンスとクラウドコンピューティング

株式会社大和総研 専務執行役員 鈴木孝一氏



コーポレート・ガバナンスが大変重要であることは、日本の企業の経営者であれば、みなさん痛感されていると思います。それではITガバナンスはどうでしょう。経営者の方の多くが、情報担当に聞いてみないと分からないと言われるのではないのでしょうか。実はクラウドコンピューティングとは、ITガバナンスを行うための手法でもあるのです。これまでビジネスとITは、ガバナンスでは別に語られることが多かったわけですが、この溝を一気に埋めるチャンスが来たと思えることができます。そして、そのキーワードが「標準化」です。

大和総研ホールディングスは、新日鉄ソリューションズ、パナソニック電工インフォメーションシステムズと共にクラウド技術推進グループを昨年10月に発足しました。このグ

ループでは分散インフラの標準化を推進することで、ガバナンスの効くITを目指しています。これによって安定したITサービスの維持と保守サービスの大幅な負担軽減を実現していきたいと考えております。

インテックをはじめ、IT関連事業者には、このようなユーザー企業の取り組みに呼応したクラウド時代のサービスや機材の市場展開を期待しております。これらの活動が必ずや日本の情報技術の発展、そして企業のビジネスのこれまでにない発展に寄与するものと確信しています。

インテックの主なクラウドサービス

分類	サービス名
インフラサービス	エンタープライズ向けクラウドサービス基盤 EINS/SPS(アインズ/エスピーエス)
	System i 仮想ホスティングサービス ASクラウドサービス
	統合基盤構築サービス
	シンクライアントDC
プラットフォームソリューション	リアルクラウド・プラットフォーム EXAGE(エクセージ)
	クラウドストレージソリューション Exa Space(エクサスペース)
	ハイブリッド型コールセンターASPサービス CTI-One/AS
アプリケーションサービス	ASP型EDIソリューション EDI-Hub
	トレーサビリティシステム i-TRe(アイトレ)
	クラウドテレフォニー SaaS型着信管理サービス Callノート
	クラウドテレフォニー Web・電話連動型顧客接点強化ソリューション Callクレヨン
	デジタルペンASPサービス
クラウドデバイスソリューション	スマートフォン遠隔制御サービス Smart-let(スマートレット)

具体的なニーズに応える インテックのクラウドサービス

インテックは、お客さまのパートナーとしてより具体的なニーズにお応えするサービスとその活用方法をご提案してまいります。

ビジネス環境の変化への迅速な対応や、組織や企業を超えたコミュニケーション促進などのニーズに対しては、食品トレーサビリティなどの企業間での情報共有を容易に実現する「i-TRe(アイトレ)」や、音声コミュニケーションをはじめとするテレフォニー技術をWebに組み込んだ「Callノート/Cloudクレヨン」など、多彩なアプリケーションサービスを用意しています。

運用コストなどのTCO削減やIT資産の圧縮、リードタイムの短縮といったニーズに対しては、高信頼性・高可用性を実現するインフラサービスとして「EINS/SPS」や「ASクラウドサービス」「統合基盤構築サービス」を提供しています。また、クラウドサービスを支える基盤として堅牢なデータセンターを首都圏、北陸地区など各地に保有し、24時間365日の高信頼サービスを提供し続けています。

さらに、お客さまのニーズに対するクラウドサービスの適合性を評価するコンサルティングサービス、

様々なサービスを組み合わせることでお客さまのニーズにお応えするインテグレーションサービスなど、クラウド活用の企画から運用までを総合的にご支援いたします。

インテックでは、クラウドの普及はコンピュータと通信ネットワークの進化という連続的な流れの中で起きている重要なパラダイムシフトと捉えています。

インターネットは私たちの生活に欠かせないものとなりました。クラウドもコンピュータの利用形態が「所有」から「利用」に変化することで、インターネットとの組み合わせによる次世代の社会基盤に成長するでしょう。

創業以来およそ50年にわたりこのITの大きな変化の流れの中で、インテックはお客さまが必要とする商品やサービスを開発し、提供してまいりました。その根底にある

- 高い品質と信頼性、安全性を追求する「責任力」
- コンサルティングから保守運用まで幅広いお客さまニーズに対応する「総合力」
- 時代を先取りした研究開発やビジネス開発に取り組む「展開力」

をもって、クラウド時代においても、お客さまに高品質のサービスを提供してまいります。

使えるクラウド!

INTEC Cloud Conference 2011

～情報化戦略立案のヒント～

インテックは、「使えるクラウド!」をテーマに全国4カ所でINTEC Cloud Conference 2011を開催いたします。クラウドは、ITコストの最適化やビジネスのスピードアップ実現を目指して、IT基盤の更改や新規システム開発の際に必ずといっていいほど検討されるようになりました。本カンファレンスでは、お客さまの活用事例やインテックのクラウドへの取り組みをご紹介します。皆さまのご来場をお待ちしております。

■お申し込み、お問い合わせはこちらまで



クラウドビジネス推進室
E-Mail: icc2011@intec.co.jp
TEL: (03) 5665-5016

東京

日時: 2011年2月17日(木) 13:30~17:20(受付13:00~)
場所: ベルサール八重洲
東京都中央区八重洲1-3-7八重洲ファーストフィナンシャルビル

富山

日時: 2011年2月22日(火) 13:30~16:30(受付13:00~)
場所: インテック本社ビル タワー111
富山市牛島新町5-5

名古屋

日時: 2011年2月23日(水) 13:30~17:00(受付13:00~)
場所: ちとせビル
名古屋市中村区名駅4-26-13

大阪

日時: 2011年2月24日(木) 14:00~16:35(受付13:30~)
場所: 大阪第一ホテル
大阪市北区梅田1-9-20

※プログラムの詳細はホームページ
<http://www.intec.co.jp/>をご覧ください。
※いずれも事前登録制です。

cloud computing